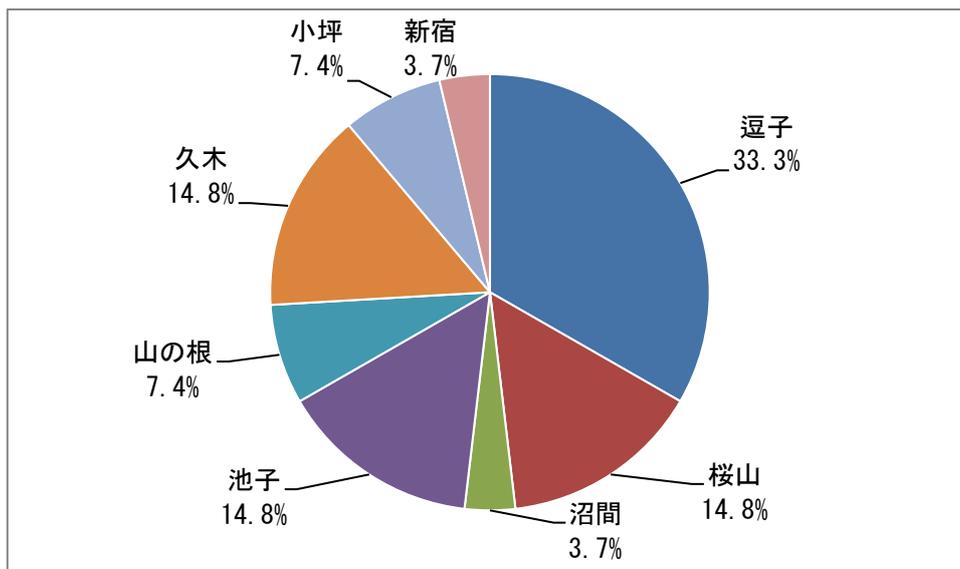


## 第 15 回 逗子の未来協議会 アンケート結果

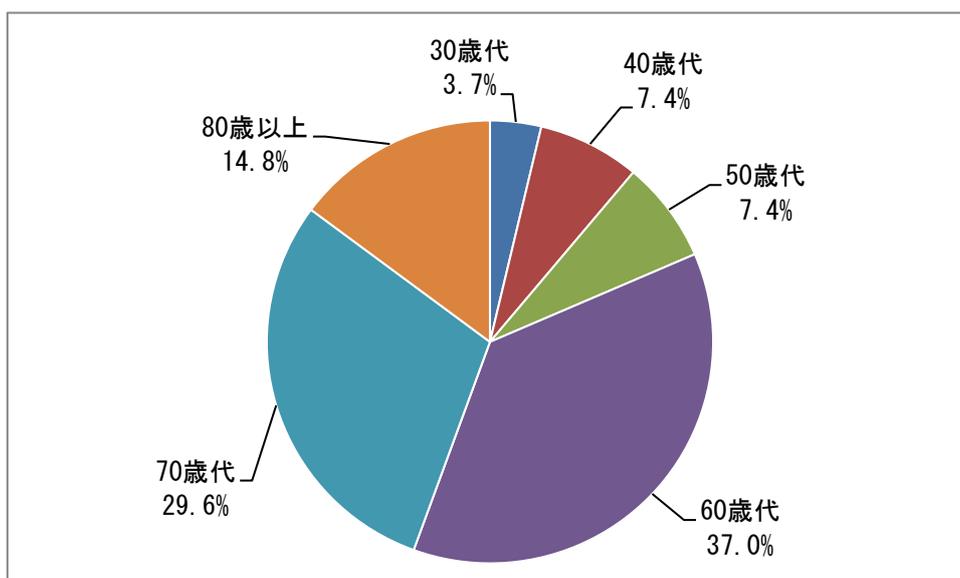
実施日：平成 30 年 2 月 10 日（土）

回収数：27（回収率 100%）

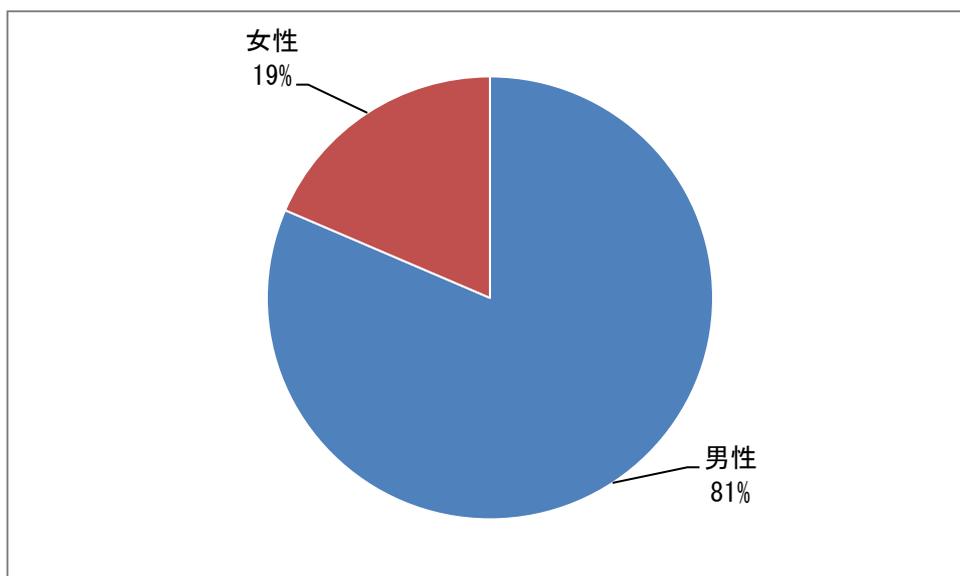
### 1 第 15 回参加者の居住地域



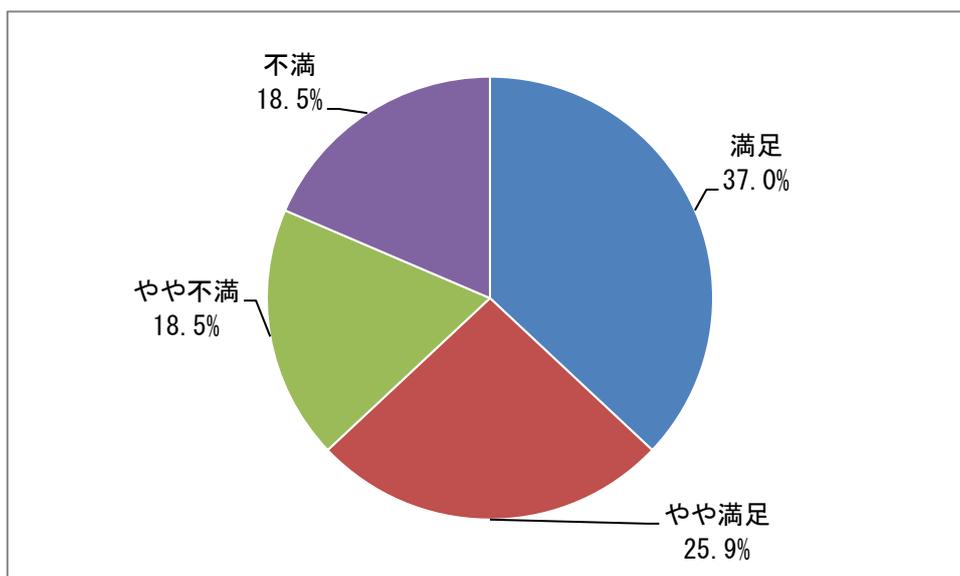
### 2 第 15 回参加者の年代



### 3 第15回参加者の性別



### 4 第15回の感想



#### 【「1. 満足」を選択した理由】

- ◆ ①多くの異なった意見が出され、満足するワークショップであった②進行の進め方には問題があった。要改善。
- ◆ 前文の検討プロセスを示していただき、多様な意見が出た。
- ◆ 前文の議論が良かったです。
- ◆ 細かい修正はいらない。後は実行されるかが大切だと思う。
- ◆ 今回初めてワークショップらしい白熱した意見が出た。

- ◆ 前文作成メンバーの努力には心から“ありがとうございます。ご苦労様”でした。
- ◆ コーディネーター東さんの独善的な進行は問題あり。この協議会で議論したというアリバイづくりが全面に出ている。
- ◆ 前文についてさまざまな意見が出た。前文は、歴史認識、未来に対する見通しが一連のストーリーの元になり、哲学と文章力で情熱的にまとめる必要があると思った。
- ◆ 前文1つとっても人それぞれであり、人が集まれば色々な知恵が出るものだと改めて思った。これだけ人が熱く語ることでできる逗子は素晴らしいのではないかと考えた（みんな逗子を真剣に考えている）みんな逗子が好きなのだ。
- ◆ 段々素直な意見が出るようになった。やはり、たたき台が必要です。
- ◆ 具体的な意見を数多く聞くことができました。

### **【「2. やや満足」を選択した理由】**

- ◆ 時間が不足。ワークショップが次回で終了になるが次の工程が見えない。この仕組みを継続することに意義があるのではないか。
- ◆ 条例案への議論の場所を確保してほしい。
- ◆ 今から思えばということではありますが、先ず条例の前文で①背景・理由・課題②課題・問題③解決方法・手段と整理し、それを集中的に議論し、その精神・筋書きによって条文を作り、再び最後に前文の見直しをする、という仕組みがあってもよい、必要ではないか。
- ◆ 1950年独立の背景・原動力となった市民自治の内容・実態があったのか？それを知りたい。そして、それ以来の自治の実態がどんなものであったかの専門的調査（社会学者など）は皆無なのか？実態の把握なしで頭から自治のあり方を条例という形で市民に与えるのは前時代的ではないか。  
→ 松下下先生のお考えを知りたい。
- ◆ 比較的活発な議論ができた。

### **【「3. やや不満」を選択した理由】**

- ◆ 一部の人が何回も発言する状況は良くなかった。グループワークが必要だったのではないか。
- ◆ あげ足取りとまでは言いませんが、細かい所ばかりの話が残念でした。前文にこめる思いは「どういう市にしたいか」が込められていれば、伝われば、その後の本文を読んでもらえる可能性があがると思うので、そういった意味ではこの前文案で最初の3行に入っている「恵まれた環境」を守る、より良くする為の決意表明として前文を読めたのでこの方向でよいと思いました。
- ◆ この条例を会議市民にどのように広報して理解させるかについて、市民代表の市会への周知については？
- ◆ 事務局の皆さんが悪いわけではないのですが、一部の否定的な意見をもった方による前半の時間のロスはもったいないと思いました
- ◆ （前文について）前文は「どうしたいのか」という想いを表現するものであると

思います。検討メンバーで十分に熟慮され、大事な要素をすべて盛り込んでいただいていると思います。その中で3つ目のセンテンス「自分たちのまちのことは、自分たちで考える」という DNA を受け継ぎ、どのような未来を築くためにこの条例を制定するのかということがもっとストレートに（ハートフルに）伝わる言葉にすると、より良い前文になると感じました。例えば、「自分たちのまちのことは自分たちで考える」という自治に対する想いを受け継ぎ、逗子のまちを愛する一人一人がこのまちを創っていく主人公として、逗子市の未来を築きましょう。「逗子のまちが好き」という気持ちは、居住歴に関係ないマインドだと思うので、先人たちの DNA をしっかり受け継いで、皆が“主人公”“自分ごと”として逗子の明るい未来を創っていくための条例であることが伝わる表現にしていただけると嬉しいです。

- ◆ 参加者一人一人の思いが重いと感じました。

#### **【「4. 不満」を選択した理由】**

- ◆ 松下先生の最後のまとめの意見はどうかと思う。市民の意見をどうこう思うと大学の先生が言ってしまう。そういう形はとらないでほしい。タイミング的に先に言ってもらってそれを市民が受けついで意見を言う方がいいと思う。
- ◆ 参加者の意見の中に条例案最終になってもうまくまとまっていない、との発言が多い。このまま進めて参加者の不満が残ってしまうのではないか？
- ◆ 前文の議論、全く議論が成熟していない形で前文が提示（結果全て不満）
- ◆ 条例文案は前文案を除いて押しつけの印象あり、議論を次回に譲ったのはよいが根本的なことさえできなかつた。自治会・町内会を行政の手足にするなという GHQ 指令の趣旨、協働という用語は労働法制からも使うべきではないこと、犯罪多発のまちでは自己決定権も侵害されるので防犯も大切な視点であること、オンブズマンによる市民苦情の処理の必要性など、重要で不可欠な事である。
- ◆ 議論の進め方がまずい。